

気候変動セミナー

主な Q&A

- Q. 顧客のトランジションが MUFG の期待水準に達しない場合、どのような対応をとっているのか。
- A. お客さまのトランジションに対する姿勢・能力・コミットメント等を定性的に評価しているが、基準に満たないことを理由にファイナンスを取りやめることは行っておらず、お客さまに対してエンゲージメントを行い、トランジションのプロセスの改善を図っている。個別の案件に関しては、「MUFG 環境・社会ポリシーフレームワーク」の目線に合致しない場合には、与信行為を行わないこともある。
- Q. 株主から提案されている定款変更が行われた場合、MUFG の企業価値にどのような影響があると考えているのか。
- A. 定款には、会社の組織・運営の基本的事項が定められている。今回の株主提案のように、個別具体的な業務執行に関する事柄を定款に規定すると、機動的に計画の見直しを行う場合にも、株主総会の特別決議を必要とすることから、業務執行に関する迅速な対応が困難になり、悪影響が生じる可能性がある。従って、定款変更に関する株主提案は適切ではないと考えている。
- Q. カーボンニュートラルに向けたこれまでの取り組みに対する自己評価を教えてください。
- A. 2 年前のカーボンニュートラル宣言以降、当社は正しい方向にスピード感を持って取り組んできたと評価している。例えば、国際的な枠組みへの参加や意見発信、5 つのセクター（電力、石油・ガス、不動産、鉄鋼、船舶）の中間目標設定、自社の GHG 排出量削減などで、こうした取り組みはプログレスレポートなどでも開示してきた。また、特に高排出セクターのお客さまとのエンゲージメントを強化し、その成果としてトランジション白書を公表し、政策提言にもつなげている。他社比で先んじている部分もあるが、グローバル及び日本の金融界と歩調を一にして進めることが大事で、今後もその動きを加速させていく。
- Q. サステナブルファイナンス目標に対する進捗は順調だが、今後、目標を引き上げる可能性はあるか。

- A. 足許の目標 35 兆円に対する進捗は順調だ。他社の動向も踏まえ、定義の見直しも含めて、目標の引き上げを検討している。
- Q. 移行計画の外部からの客観性を担保するため、第三者認証の取得なども検討しているのか。
- A. 移行計画は、今年度中なるべく早いタイミングで開示したいと考えている。第三者認証については、その必要性や取り入れ方など、改めて検討したい。
- Q. サステナブルファイナンス目標の設定は実績値ベースだが、ファイナンスによるインパクトの開示も検討できないのか。
- A. サステナブルファイナンスによるインパクトの開示は、重要な論点だと認識しているが、開示に耐え得るだけのインパクト計測には、まだ技術的な難しさがある。一方、PRB でもインパクトの開示は求められており、どのような形で開示できるのか、データが揃うのかなどの観点も考慮しつつ、いただいたご意見を踏まえて積極的に進めていきたい。

以 上